

目次

はじめに	1
水のみち構想とは	1
水のみち整備計画の策定にあたって (意見交換会)	2
地域の方々などの意見から整備計画へ (意見と対応策)	3
1 川の状態	3
2 歩きやすさ	4
3 川との 触れ合い	4
4 趣	4
計画期間と取り組みの方向性	5

はじめに

新発田市では、まちの骨格の形成や生活に密着した川である新発田川を「水のみち」として位置付け、この新発田川を再生・整備し、市民はもとより来訪者が集い、交流が生まれる場とすることで、まちなかの再生を図ることを目指し、「水のみち構想」を策定しました。

この水のみち構想の実現のためには、新発田川沿いに暮らす人の視線を大切に、地域と行政とがそれぞれの立場で果たすべき役割と責任を自覚し、協力し合って整備計画を策定する必要があります。

そこで、水のみち沿線6町内会や関係団体の皆さまから水のみちに対するご意見をいただき、そのご意見を基に、整備計画をまとめました。



水のみち構想とは

水のみち構想では、次の2つの基本方針と目標を定めています。

◆市民から愛される水のみち

- ・水量確保に向けた取り組みの推進
- ・水質向上のため、下水道接続を促進
- ・新発田川沿いの美化、清掃活動の推進
- ・川と触れ合い、人との交流が生まれる環境の整備

◆歴史を活かし、調和のとれた水のみち

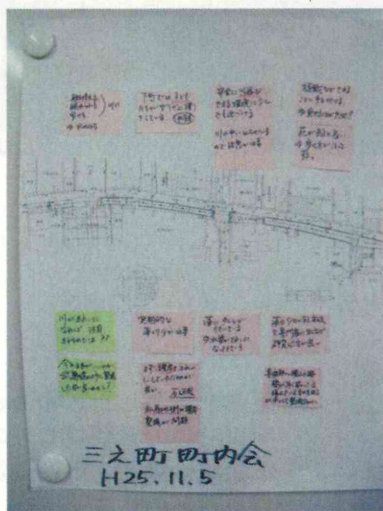
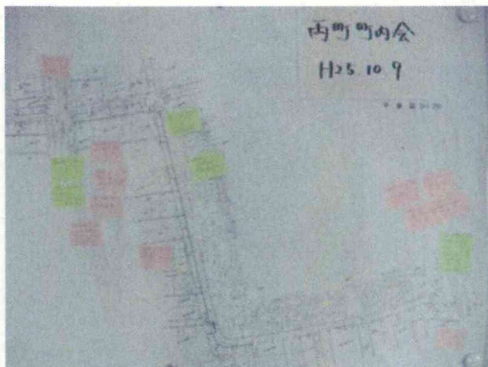
- ・川沿いの景観づくりの推進
- ・地域に点在する歴史資産をつなぐ周遊ルートの作成
- ・市道橋や道路等の整備
- ・歩きやすい環境の整備

水のみち整備計画の策定にあたって

意見交換会

水のみち整備計画を策定するにあたり、水のみち沿線6町内会の方々が、水のみちの整備についてどのような思いを持っているのか、様々な観点で幅広くご意見を伺うため、町内会ごとに全4回の意見交換会を実施しました。

また、新発田川の水質と自然環境の回復を図ることで新発田川を市民や子ども達の憩いの場とするための活動を行っているNPO法人「新発田川を愛する会」の方々と意見交換会を実施しました。



《いただいた様々なご意見》

◆沿線6町内会との意見交換会

・第1回 両町町内会

両町公会堂(平成25年10月9日)

参加者 9名

・第2回 四之町町内会

四之町公会堂(平成25年10月15日)

参加者 9名

・第3回 三之町町内会

三之町公会堂(平成25年11月5日)

参加者 8名

・第4回 上・中・下町町内会

下町わ組会館(平成25年11月6日)

参加者 6名

◆「新発田川を愛する会」との意見交換会

まちの駅(平成26年2月15日)

参加者 6名



《意見交換会の様子》

1 川の状態

意見

- 水量が少ない
- 水が流れていない
- 水がきれいに見えない
- 生活雑排水が流入している
- 下水道の繋ぎ込みがされていない

- 泥やヘドロが溜まっている
- 川底があがってきている
- 橋が多くて川が見えない

●藻がひどい(繁茂する)

- ・藻が生える条件や少なくする方法を研究し、有効な対策をすべき
- ・藻刈りの方法を検討
- ・定期的な藻刈りが必要
- ・藻が生えないよう川底を砂利にしたらどうか

●魚が上ってこられない

- 魚や他の水生生物がいるようになれば良い

対応策

○水量の必要量を確保するため、流水量の現状把握を行い、流水量が水深に及ぼす影響について調べます

○下水道接続率向上の啓発活動を行います

○環境意識を高めるイベントや取り組みを行います

○地域の方と協力し、川をきれいにする運動に取り組みます

○川底をきれいにし、堆積した泥やヘドロを取り除きます

○橋を利用した川祭りや夕涼みといった川に親しむイベントを行い、たくさん架かっている橋を逆に活用します

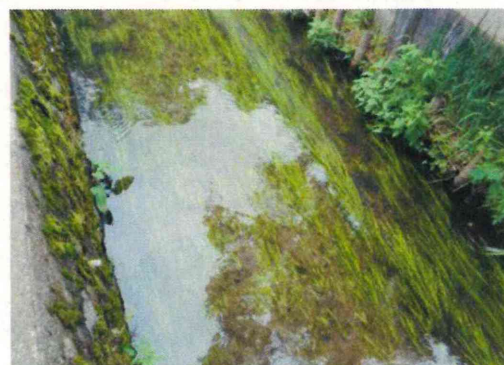
○個人の橋の架け替えや新規設置における基準を明確にします

○藻の生育に関する研究を行い、その結果に基づいた対策を取ります

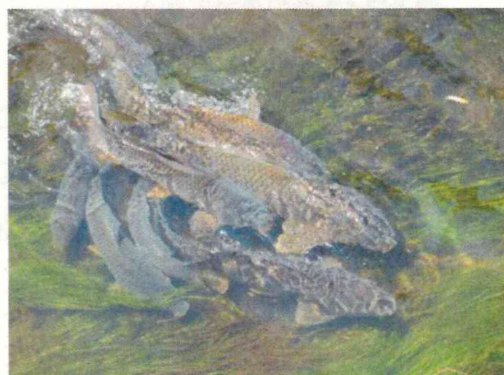
○効果的な藻刈りの時期、回数や方法のほか、川底の改良について検討します

○魚道の整備や、魚の隠れる場所を作ります

○魚や他の水生生物が生息できるような環境整備を行います



《新発田川の様子》



《新発田川の鯉(住吉町1丁目付近)》



《川の生物を探す子どもたち》
(総合学習の様子)

2 歩きやすさ

意見

- 護岸が悪いところがある
- 道路がデコボコ、傾斜がある
- 防護柵が壊れている
- 暗い
- 道路が狭い
- 車の交通量が多い

対応策

- 護岸の修繕を行います
- 道路の勾配や段差をなおします
- 防護柵を新しくします
- 街灯を整備したり、防護柵にライトを設置します
- 歩行者が安全に歩けるような対策を検討します



《整備イメージ》

3 川との触れ合い

意見

- 道路と水面の差が大きい
- 川に降りられない、近づけない
- 川遊びができる環境が必要
- 川戸を活用した整備が必要

対応策

- ポケットパークなどの整備で、川へ降りられる環境を作ります
- 子どもたちの遊び場を作ります
- 川戸を活かした環境整備を行います（護岸整備）



《ポケットパーク整備イメージ》

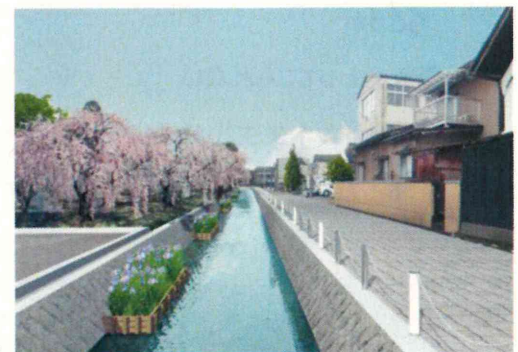
4 趣

意見

- 橋や防護柵などの構造物に統一性がない
- 護岸を石垣風にすると風情が出る
- アヤメの植栽や花があると良い
- 小路を活かすと良いのでは
- 公設市場を武庸橋に合うよう修繕したり、「お休み処」のようなテーマスペースとして活用したらどうか
- 武庸橋から長徳寺へと誘導するようカラー舗装したらどうか
- 趣のある橋名を付けたほうが良い

対応策

- 構造物の色合いや材質に統一感ができるように工夫します
- 石垣風などに護岸を整備します
- 沿線に桜やプランターで花の植栽を行うなど、この道を歩きたいと思わせる工夫をします
- 川戸・蔵・小路といった歴史的資産を活かします
- 公設市場をお休み処などの形で活用を検討します
- カラー舗装などで道路をサイン化し、観光名所をつなぎます



《護岸整備と花のある川沿いのイメージ》

計画期間と取り組みの方向性

このように、地域の方々の意見を基にした対応策を「水のみち整備計画」と位置付け、平成26年度から平成35年度までの10年間を計画期間とします。

計画初年度の平成26年度としては、水のみち沿線の実施設計(護岸・道路美装化・ポケットパーク等)を行うこととしており、その中でこの整備計画を具体化していくこととしています。

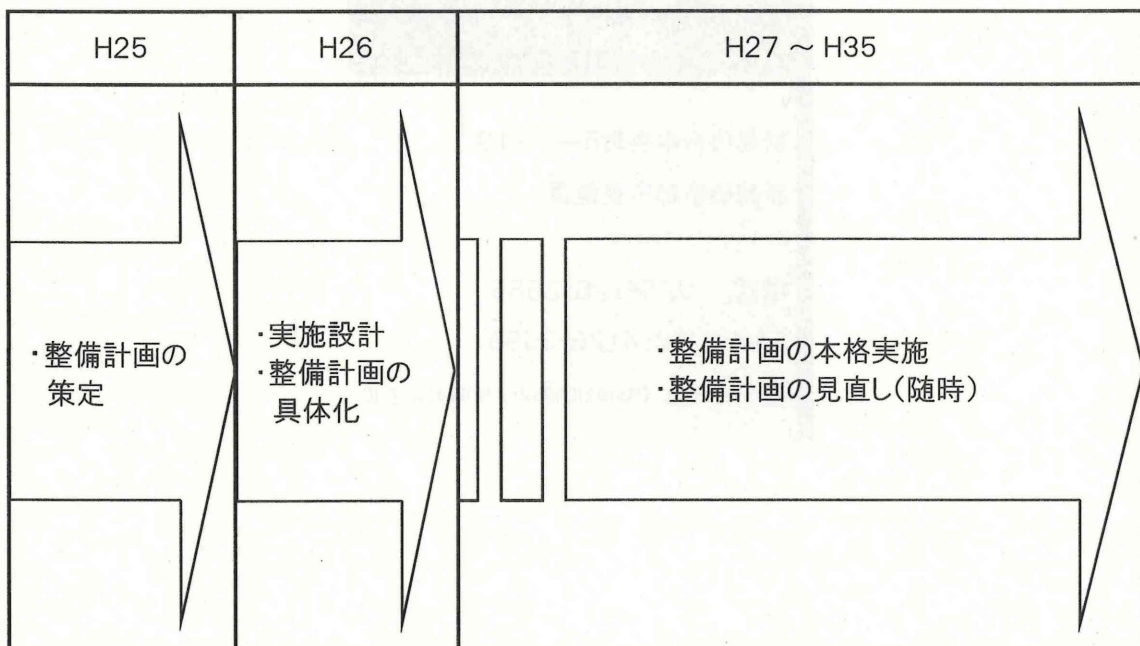
なお、水のみちの整備にあたっては、沿線6町内会の方々や関係団体等と行政とが意見を出し合い、整備計画の見直しも随時行いながら、協力し合って進めていきます。

今後も水のみち構想の実現に向け、地域の方と一体となり、息の長い継続的な取り組みを行っていきます。



《川清掃の様子》

◆ 今後の進め方(フロー図)



新発田市

新発田市中央町5-2-13

新発田市都市整備課

電話: 0254(26)3555

FAX: 0254(26)3559

電子メール: toseiibi@city.shibata.lg.jp